

刊夕日三十月六

常磐毎日新聞

定価一円 一ヶ月五元 三ヶ月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告料五號十二字 第一行五元 五折 第二行四元 五折 第三行三元 五折
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社 電話六三〇〇
 印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社

三十億圓突破

平郵便局長 佐藤守節

△契約の普及
 今この契約の普及割合を見ると内地の人口千人當約三百二十件で、(仙遊管内は三百四件)云ひ換へれば老人でも、子供でも、男でも女でも兎に角日本人が三人寄れば、その中の一人は必ず簡易保険に加入してゐることになり、又之を世帯別に見ると何處の家庭でも平均して、凡そ二件位、又保険金額では二百三十圓程の契約を持つて居ることとなるのである。

△制度の改善
 事新らしく説明する迄もなく、簡易保険事業は國民生活の安定を圖り、社會福利の増進を助けることを目的とした絶対非營利の建前の下に、國家が經營してゐる、社會政策的施設であるから事業經營上生じた餘裕は總べて加入者の利益の爲

大島にて

仲村 花醉

朝霧のさ中に浮ぶ大島を夢見て眠る人と覺しき
 朝月の薄れて消ゆる海原を背に負ひ登る椿く山
 朝かけて繁れる樹々の枝を傳ふ蝸の音のいと珍らし
 降るが如飛び交ふてくる蝸を吻珍らしく捕へても見し
 朝樹々の梢を傳ふて流れ来る大島節に足止めにつけり
 突き出し岩の長根が濱に立ち波打ち返すしびき浴びぬ
 下田への船も波間に吸はれ行き日暮るゝ沖を千鳥飛び交ふ

めに返還すると云ふ方針を採つてゐるのであつて、簡易保険が實施せられてから僅に十數年に過ぎないのであるが、此の間に於いて事業の順調にして、且つ堅實なる發達に伴つて保険金額の擴張、小兒保險制度の

★〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 ○明日の献立○
 ◎〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇★

【朝】味噌汁—もづ三洲みそ 小付 花らつきや
 【晝】天井
 【晚】焼竹輪 玉菜の煮付 魚の煮付

實施を始めとして種々なる点に於いて重要な改正を加へられてゐるのである。茲に其の主なるものに就て簡単に述べて見るとしやう。

店主が店員	を連れて行	か	れる	正	しい	食堂	正	しい	喫茶	平・田町	レストサロン	電二三番
-------	-------	---	----	---	----	----	---	----	----	------	--------	------

優良投資株式賣出

商號 富國鑛業株式會社
 本社 東京市京橋區東京ビル五階
 電話(三三九)・四四六・六三六(〇)
 資本金 壹百萬圓
 鑛種 金、銀、銅、鐵、ニッケル鑛
 鑛區 田村郡飯野村、御館村外數村
 鑛色 白金、ニッケル、檢出精鍊
 特 色 管テ各新聞紙上ニ於テ發表サレ既ニ御承知ノ通り本縣石川中學校教諭菅谷氏ノ献身的研究ニヨリ從來不可能視セラレタル最靈基性岩石ヨリ白金、ニッケルノ檢出精鍊ニ成功シ我國化學工業軍需工業ニ一新紀元ヲ劃シ各方面ヨリ期待セラレ最近社會狀況ニ乗ジ頓ニ進展セル有望事業ナリ
 尙ホニツケルニ對シ軍需工業助成ノ爲メ國庫補助ヲ交附サル、ニ確定シ既ニ官報ニ發表セラレタリ
 右一株額面二十圓全額拂込済株式ヲ特價ニテ提供致シマス御報次第參上バンフレット進呈

取扱店 大福湯本證券會社
 湯本町驛前 電話六七七番

出張所 平町大通り三共商會會社
 電話三六〇番

新車御披露

素晴らしい乗心地の!!!
 三十五年式流線型新車が
 参りまじした
 是非御試乗御利用の程を御願申します

三井タクシー
 電話八六五番

吉田眼科病院

平野屋町電話六八番
 醫學士 吉田久雄

齒科口腔外科 レントゲン科

院長 東京齒科醫學士 原 精一
 醫學士 柏倉 武男
 平町土橋通り
 電話三一一番
 原齒科醫院

金屋商店

磐城セメント會社特約店
 磐城平町五丁目 電話九番九九
 □良品廉賣に勝る商略なし
 □確實敏捷はの生命なり

石炭一〇〇パーセント
 サイヴキス

時節柄 値下げ!
 ダンゼン
 一等塊 正味五〇斤入一俵 金貳拾八錢
 金參拾五錢

石炭
 コークス
 豆炭
 阿部石炭商店
 電話三七番

これは困つた男

酔へば野菜が眼の仇

平窪の源さん平署に檢舉

酒好の妙な悪戯が過ぎて檢舉された男がある平窪村大字中平窪字境農大和田源左衛門(五)は酒を飲むと他人の畑を荒し度くなると云ふ變つた癖を持つて居り去月十四日夜友人方で一杯引つかけた爲め勿ち本性を現し

そろ／＼季節な

傳染病に御用心

平町で注意書配布

平町役場ではそろ／＼夏季傳染病の發生期となり殊に本年は天候不順の爲め既に町立避病院には腸チブス十二名猩紅熱十三名疫病二名デフテリア廿七名、合計五十四名の患者を收容し目下五名が入院中であるが町役場では傳染病發生期に入つて更に増加されてはと近く各區長を経て左記注意を發する事になつた

一、蠅の驅除を圖り便壺を密閉し汚物廢物の類は其容器に必ず蓋となし蠅の出入を防止する

一、果實魚類其他の食品に注意し努めて煮沸の上用ひる

一、食器類の煮沸肌着の洗

麥の病害 驅除

郡農會で獎勵 最近高温多濕の天候が續くので郡下各地には麥の白澁

病が發生し益々蔓延の傾向があるの目下農事試験本場の橋本技手が出張し被害調査中で郡農會では豫防法として石灰硫黄合劑ボーメ比重〇四乃至五度液の撒布

山本炭礦主も

納炭疑獄に連座

きのう大阪に收容

勿來町山本炭礦坑主木村康一郎(四)氏は過般大阪セメント事件で大阪地方検事局に護送され取調中であつたが去る十一日瀆職罪として北區所へ收容された同氏は先に收容された好間村小田吉次氏等の石炭納入に就き鐵道省官吏に贈つた賄賂の取次をしたものらしいと

赤井教員團

農利用の視察 赤井第一小學校では農利用し今十三日より全校職員が平町各小學校の授業參觀を行った尙十七日より三日間栃木、東京方面に向つて教育視察を行ふ

毎日一萬圓突破

豐漁の大敷網

濱は俄かの活況

小名濱町大敷漁業組合では投網以來一ヶ月で水揚高十萬圓を突破する好成績を見せたが去る九日以來大鯛、鯖、鱈等の大漁續きで一日

明日の天気 十四日 今夜も明日も南東の風曇り明日は天気次第に良くなる

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 名作物語アンクルトムの小屋東京放送童話研究会
- 後六、二五 農家の時間 「養蠶經營の合理化」農林省産業課長 明石弘
- 後七、三〇 講演「各國の殖民政策を語る」農學博士 矢吹慶輝

死體一個收容 入山落盤慘事後報

既報昨十二日入山炭礦第六坑内に起つた落盤と出水の爲め生死不明となつた坑夫二名の救助作業は排水作業に手間どつて夜となり午後

明日の部

- 後九、三〇 時報 ス 氣象通報 番紅豫告
- 前六、三〇 實用品値段服部嘉香
- 前七、〇一 朝の修養 妙法蓮華經 山口光園
- 前八、〇三 家庭講座 「醬油の油」農學博士任江金之
- 後八、〇五 三曲 イ、殘月、黒髮米川敏子
- 後八、二〇 小學生の時間 唱歌「四季の雨」澤智子
- 後三、一〇 教師の時間 「宗教的信念に就て」文學博士 矢吹慶輝

人夫墜落 頭骨を折る

永戸村大字下永井字中根小玉川第二發電所工事現場の人夫佐藤七郎(三)は昨十三日午前十一時頃工事用のセメント運搬作業中誤つて高さ二十尺餘の棧橋から墜落し頭骨を折つて全治一ヶ月を要する重傷を受けた

兄宅に放火した

弟大工の公判

更らに證人を喚問

双葉郡木戸村大字山田濱字後中一五大工松本好次郎(四)が弟松本八郎の妻フサノへの憎恨から去る二月二十日午後八時頃同家入口にあつた風呂の桶裏へ薬を載せて放火した事件は昨十二日平支部中島判事係りで公開開廷されたが結審に至らず来る十五日、十六日中島判事等一行の現場檢證があり同日證人十六名が喚問される

延期

今月末に開戦

報既警陽野球聯盟主催朝日新聞後援第八回警陽野球大會は来る廿三日警中、湯本兩球場で行はれる筈であつたが當日は水戸中學が來平して警中と對戦することになつたので大會は本月卅日と來月七日に延長された

一行到着

あすは座談會

既報明十四日小名濱港視察の爲め來郡する東北港灣振港調査會の堀切委員長、安藝工學博士、大阪商船重役末永一氏の一行は本日午後湯本驛に到着松泊館に投宿し更に小名濱小學校で開かれる座談會に出席する縣の迫經濟部長、大石土木課長木村技師、阿部、丹野兩主事の一行は自動車で本日午後三時湯本町に着し直に山形屋旅館に入つた



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島征史
(書) 野口

第四百十八回

思慕と望郷(一)

海の幸、陸の幸が、有餘の程ある千島をすて、東京へ金鑽を探しにくるなか、こいつア頭が狂つてゐる證據だぞ。

と苦笑した。すると馬の目を抜く東京の街々を、血眼になつて歩き廻つてゐる地方出の人々がどうやら不憐なものに感じられて来た——何を探して廻つて居るんだろ。

まさか金鑽でもあるまいと思つた。東京には御一新以前の商家が軒をならべて居る。四民平等の有難い制度が布かれて此のあたりに武士失業者がうよ／＼とめいてゐる。俄づ／＼の官員さんが山高帽子でそりかへつて歩いて居る。そのありあまるほど居る人のうづの中へ地方の頭のおい人間が割こまうといふのは、そも／＼の間違ひなのだ。今に地方には血氣の人間が拂底し東京は失業浮浪の徒でうまつてしまふだらう。——こんな事なら、わざ／＼出て来るのではなかつた。

そろ／＼茂平次は氷雪にとざされたエトロフ島が戀しくなつて来た。一日も早く羅紗帽子をすて紅毛服を脱ぎ、原始人の盛生活にかへりたいと思つた。するともう東京は悪の華



さく泥沼の様に、腐肉のやうに感じられてたまらなかつた。茂平次は、品川宿の旅籠三洲屋の二階の一室で寒む／＼と潮騒してゐる品海を無心にながめながら傍らにこれも所在なさそうに海を眺望して居るおとわを省ていつた。

「東京と云ふところは人を働かせる處ではないのう」
「……」
おとわは憂鬱な眼をかくかに笑はして見せた。全くほかの事を考へてゐるのだ。「つまり、官員さんと、問屋筋と、遊興の場所とそんなもので出来上つて居る、人間の墓場みたいなものさね」
「……」
「わしは東京に金鑽でもあらうかと思つてやつて来たのさ、ところが金鑽どころか馬の骨さへ落ちてやしない」

にも見えないからおかしいよ。泥人形が綺麗に飾つたつてはじまらないよ。もつと生き／＼した強い野蠻な人間が田舎には居る」
「……」
どういふ積りで茂平次が都會を嫌惡してゐるのか分らなかつた。鮭の取引でも失敗して東京を呪咀してゐるのではないかと思つた。しかし茂平次はそんな風を見せず、
「わしはそろ／＼エトロフへ歸らふと思ふよ」
不思議と朗かな調子でいつた。

遊覽團體募集

日歸ノ部

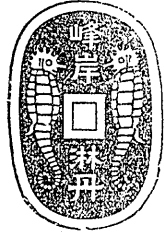
柳居津虚空藏尊(猪苗湖、東山白虎隊廻り)
出發 六月二十日 午前三時
會費 往復自動車賃 貳圓也
光(笠間稻荷様廻り、日光六時休憩)

一泊ノ部

古峯様參詣(日光參拜一泊、東京市内各所遊覽)
出發 六月廿五日
會費 六月廿四日也
會費 (但シ晝食二回宿泊料ヲ含ム)
(各車共定員二十二名、定員未滿ノ節ハ勝手乍ラ)
(延期スル事モアリマス)
其他御希望ノ各種團體ニモ應ジマス

尼子自動車商會 遊覽部

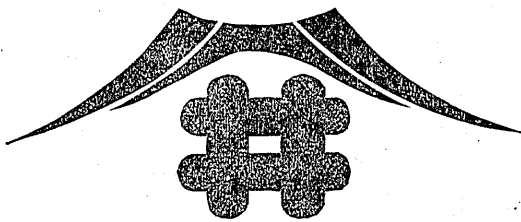
電話六四〇番



登錄商標
東北商行
電話六五三

景品付大賣出

景品 九升詰壹樽御買上毎二優
良化粧石鹼三ヶ入壹箱
特賣期間 自六月五日
至七月卅日



井傳醬油

平出張所開設記念

水戸井傳醬油特賣

定九	最上	フジ井印	三圓九十錢
並	次	フク井印	三圓三十錢
		カク井印	一圓八十錢

井傳醬油出張所

水戸市井傳醬油醸造元

特約店御希望の方ハ御報次第參上